

# 津波の爪痕、ひたむきに生きる人々…

加古川青年会議所は、東日本大震災の発生から2年となるのに合わせ、東北の中学生らが被災地を写した写真展「MESSAGE(メッセージ) 語り継ぐ想い」を5日から、加古川市、稲美町、播磨町で

開く。展示する写真は計80点。津波で一変したまちで、ひたむきに生きる人の姿や、被災後も変わらぬ自然の営みに、中学生らは「シャッターを切つてい

(武藤邦生)

## 東北の中学生が 撮影した被災地



2011年4月17日に若手奥釜石市で撮影された作品(絶望に向かい、希望を拾う)。(復興支援メディア提供)

新聞やテレビでの報道が薄く、人々の被災地に対する意識が薄れているとの思いから、NPO法人の映像情報士協会(神奈川県)の協力を得て開催。同法人は「復興支援メディア隊」と名づけ、被災地からの発信に取り組み、写真は、若手、宮城、福島の中学生を中心にとするメンバーがコンパクトカメラで撮影した。がれきの中を道を通る学校へ向かう中学生の後ろ姿、自転車、朝練向かう高校球児、打ち上げられた船の胴を顔を出した芽、絶望を受け止める

新聞やテレビでの報道が薄く、人々の被災地に対する意識が薄れているとの思いから、NPO法人の映像情報士協会(神奈川県)の協力を得て開催。同法人は「復興支援メディア隊」と名づけ、被災地からの発信に取り組み、写真は、若手、宮城、福島の中学生を中心にとするメンバーがコンパクトカメラで撮影した。がれきの中を道を通る学校へ向かう中学生の後ろ姿、自転車、朝練向かう高校球児、打ち上げられた船の胴を顔を出した芽、絶望を受け止める

### 展示80点に分け7テーマの4会場 5日から写真展

つも未来を感じさせる場面を切り取っている。写真展の各会場では「ここにある幸せ」東北はへこたれない、絆があるから、なま、セツのテーマに分けて展示する。同会議所・想いやる心委員長の大西博久さん(37)は「被災地を想う心、そして自分の住む地域を想う心を感じてほしい」と話す。

無料。加古川青年会議所 ☎079・433・3076

期間と場所、おおよその展示点数は次の通り。

① 5/18日 加古川市役所 (40点)▽稲美町役場 (20点) ② 5/31日 加古川市加川町寺家町の東播磨生浜刺繍センター (6) ③ 6/10日 18日 19日 ④ 6/10日 18日 19日 ⑤ 6/10日 18日 19日 ⑥ 6/10日 18日 19日 ⑦ 6/10日 18日 19日 ⑧ 6/10日 18日 19日 ⑨ 6/10日 18日 19日 ⑩ 6/10日 18日 19日

本荘の町中央公民館 (30点)。休館日、開館時間はそれぞれ別の施設に準ずる。